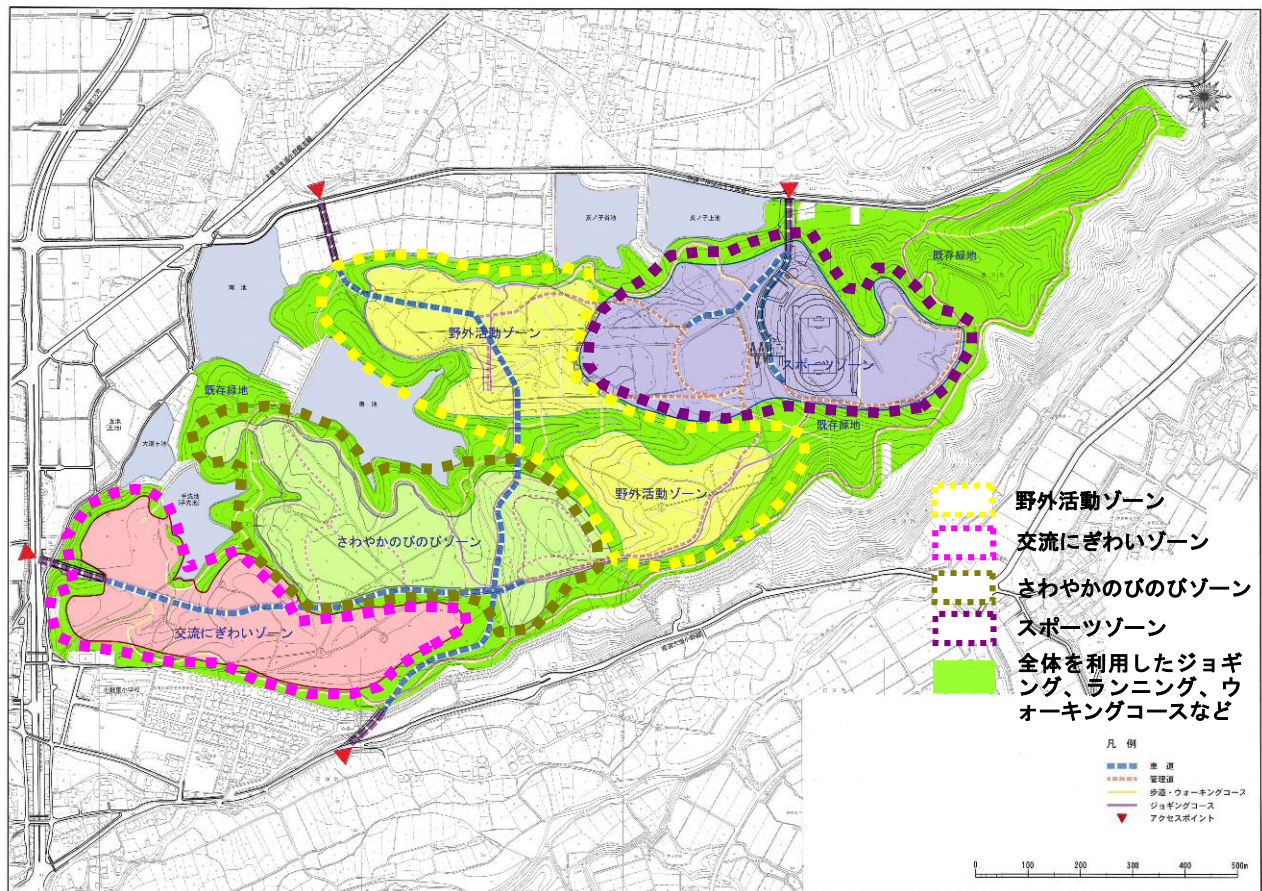


## 9. 土地利用計画

前頁までに策定した計画のテーマや方針、ゾーニング計画、また、施設配置全体イメージをさらに具体化し、4つのゾーンの特徴や施設内容、施設規模、配置、イメージ等を以下に計画する。

### ○ゾーニング計画図



## 1) 野外活動ゾーン

学校等の団体研修や合宿、シンポジウムなどで利用でき、宿泊もできるセミナーハウス、付属施設として雨天時にも利用可能な全天候型多目的ドームを計画する。また、長期滞在や短期滞在施設としてコテージ、小中学生から一般利用者までを想定したデイキャンプサイトを計画する。また、芝生広場は、フリーマーケットなどのイベントスペースとしても活用できる計画とする。

計画地の自然を学習、体感してもらうために、計画地東側の自然林を活用する。また、天文台も計画する。

### ○主要構成施設

- ・セミナーハウス・・・学校や企業、一般向けの研修施設として、また、スポーツゾーン利用者が合宿などで活用する施設とし宿泊施設も計画する。  
計画地全体を利用した自然学習や環境教育の中心施設として計画する。
- ・多目的ドーム・・・全天候型施設とし、雨天時などの利用を想定した施設として計画する。
- ・イベント広場・・・フリーマーケットなど大人数でのイベント時に利用できる規模の広場を計画する。また、学校の自然学習等利用時のキャンプサイトとしての利用も想定する。
- ・遊具広場・・・・・・大型遊具を配置し、いつでも気軽に安心して楽しめる施設を計画する。市が進める、子育て支援の一環施設として位置づける。
- ・花木苑・・・・・・ひまわりの丘公園がひまわりやコスモスなどの草本を中心とした施設として、市の花の名所となっているが、新たな新名所として、梅や桜、ツツジなどの花木類を主とした施設を計画する。
- ・森のコテージ・・・セミナーハウスから谷を挟んだ南側の丘に、現況自然を活かしたコテージを計画する。利用は、スポーツ合宿や研修会等の利用者を想定する。

○施設配置イメージ



●恵まれた自然の中で多くの人と交流する



●自然の中で共に学び、遊ぶ



## 2) 交流にぎわいゾーン

国道に面した立地を活かし、計画地のメイン集客施設として、レストランやカフェなどの飲食施設と、地域特産物などを販売する直売サテライト、地域の人達との交流の場となる手作りハウスや交流センターを計画する。各施設は、“地域色がいっぱいまった交流空間”をコンセプトとして計画する。利用者へは、食べる楽しみや買う楽しみ、地域の人と話す楽しみなどを提供し、販売する地域の人たちには、作る楽しみや売る楽しみ、教える楽しみなどが味わえる空間を計画していく。

また、多くのドッグランは高速道路に併設されているが、市街地に近い当該ゾーンに、ペットを通じた交流の場を計画する。(ドッグランの資料は資料編-5 参照)

### ○主要構成施設

- ・ レストラン・・・地域食材限定メニューなどの、地域性をアピールした施設として計画する。
- ・ 交流センター・・・ゾーンの中核施設となる交流センターを計画する。センターは、市の情報発信（PR）なども行い、野外活動ゾーンなどとの連携を図っていく。
- ・ カフェテラス・・・水辺の景観が美しい場所、アカマツやコナラ林が残る高台などに景観などの自然特性を活かした、オープンな雰囲気を持ったカフェテラスを計画する。
- ・ 直売サテライト・・・地域の特産物などを販売する施設を計画する。将来は、この場所を利用した新たな製品開発も検討する。
- ・ 手作りハウス・・・地域の人達や、セミナーハウス等滞在利用者などを対象とした、地域の食材を使った料理教室などを開催する施設として活用し、人々の交流を深める施設として計画する。
- ・ ドッグラン・・・計画地のロケーションを活かし、犬も人も一緒に自然の中を走りまわられる環境を持つ、西日本最大規模のドッグランを計画する。ドッグランは、各地での設置数や規模の面からも需要が見込める施設で、また、計画地のような自然環境の中に設けられているものは少ない。また規模の面からも計画地の持つ自然環境などの特性を活かせる施設と考えられる。

#### ●ドッグラン施設のイメージ



○施設配置イメージ



●市街地に近く、市民が利用しやすいドッグラン



●食べる楽しみ



●買う楽しみ



●売る楽しみ

●作る楽しみ  
●教える楽しみ



### 3) さわやかなのびのびゾーン

丘陵地の持つ水辺の景色や地形を活かしたオートキャンプサイト、芝生キャンプサイトや西日本最大級の規模を誇るグラウンド・ゴルフ場を計画する。

このゾーンは、計画地の持つ特徴的自然要素である水辺景観や、コナラや赤松林主体の疎林があり、また、これらの空間の中に芝生を計画することで、四季折々の自然空間構成が可能である。これらの現況を活かしたバリエーションに富む要素があることで、いつ訪れても変化に富んだ景観が楽しめ、また、リピーターの確保を図ることができる。

#### ○主要構成施設

##### ・オートキャンプサイト、キャンプサイト

・・・池が見下ろせる丘状地形の場所に、オートキャンプサイトやキャンプサイトなどの宿泊施設を計画する。この場所は、野外活動ゾーンやスポーツゾーンにも近く、テニスコートや各種ミニスポーツコートなどの施設が利用しやすい位置にある。また飲食施設や物販施設を計画する交流ゾーンにも近く、利便性が高い位置でもある。

##### ・グラウンド・ゴルフ場

・・・水辺や樹林地の景観、丘や谷などの地形を活かした、80ホールの西日本最大級の施設を計画する。

グラウンド・ゴルフは、高齢者に人気の高い健康増進生涯スポーツの代表と言われ、これから迎える超高齢社会に向けての施設である。また、計画地の広大な面積や変化に富んだ地形や景観などのメリットを活かし、オリジナリティあふれたコースづくりが可能である。

(グラウンド・ゴルフ場の資料は資料編-6 参照)

○施設配置イメージ



●広々とした空間の中で、いろんな自然が楽しめる



●いろんなタイプがあるオートキャンプサイト



●地形・景観・面積を活かしたグラウンド・ゴルフ場



#### 4) スポーツゾーン

「市民アンケート」において、最も提案が多かったのがスポーツ施設である。既設野球場や先行して整備を進める多目的運動広場などがメイン施設となる。他にテニスコートや各種ボールゲームが利用可能な多目的広場、屋外プール、気軽に少人数でも楽しめるミニスポーツコートなども設け、多様な利用者層に対応できる施設を計画する。また、計画地全体を使ったウォーキング・ジョギング・ランニングコース（クロスカントリー）も計画する。

多目的運動広場などを活用した野外ステージとしての利用も想定した計画とする。

##### ○主要構成施設

- ・多目的運動広場・・・400mトラック陸上競技場規模を持つ運動広場とし、ランニングやサッカーなどのスポーツ、面積を活かした野外コンサートなどのイベント等、多目的に利用できる計画とする。将来は、本格的陸上競技場としての整備も視野に入れた計画とする。  
また、災害時には避難場所や支援活動拠点としても利用できる計画とする。
- ・屋外プール・・・・小野市には屋外型プール施設はなく、市民は近隣施設の利用に頼っている。本計画では、レジャーから競泳用まで利用可能な屋外型プールを計画する。
- ・ミニスポーツコート・・・少人数で楽しめるスポーツ施設として、スケートボードパークや壁打ちテニスコート、クライミングウォール、3on3コートを計画する。
- ・テニスコート・・・・8面のテニスコートを計画する。コートは、全天候タイプコートのグレードを考えたものとする。
- ・多目的広場・・・・イベントやサッカーなどスポーツを気軽に、多目的に利用できる広場を計画する。面積は、サッカー場2面程度とする。